

知床半島におけるヒグマの問題個体数の推定について

1. 推定方法

知床半島の 4 地区を対象にヒグマの問題個体数の推定を実施した。

①は、直接観察と DNA による個体識別結果等を基に、頭数で個体数を算出した。

②～④は、地方独立行政法人北海道立総合研究機構 産業技術環境研究本部エネルギー・環境・地質研究所の協力を得て、出没年や出没地点等を考慮し、一定の条件を満たすものを同一個体と見なし、行動段階毎に、組数（単独＝1 頭＝1 組、親子＝2 頭 or 3 頭 or 4 頭＝1 組）で個体数を算出した。

①ウトロ周辺：

利用者が多い幌別－岩尾別地区を含んでおり、行動段階 1+の扱いが課題となっている地区。行動段階 1+以上を問題個体として個体数を算出。

②斜里町基部：

農作物被害が多く発生する地区。農作物に被害を与える行動段階 2 が問題となるが、春先に農地に出没する行動段階 1 や真鯉周辺の国道沿いに頻繁に出没する行動段階 1 も存在する。

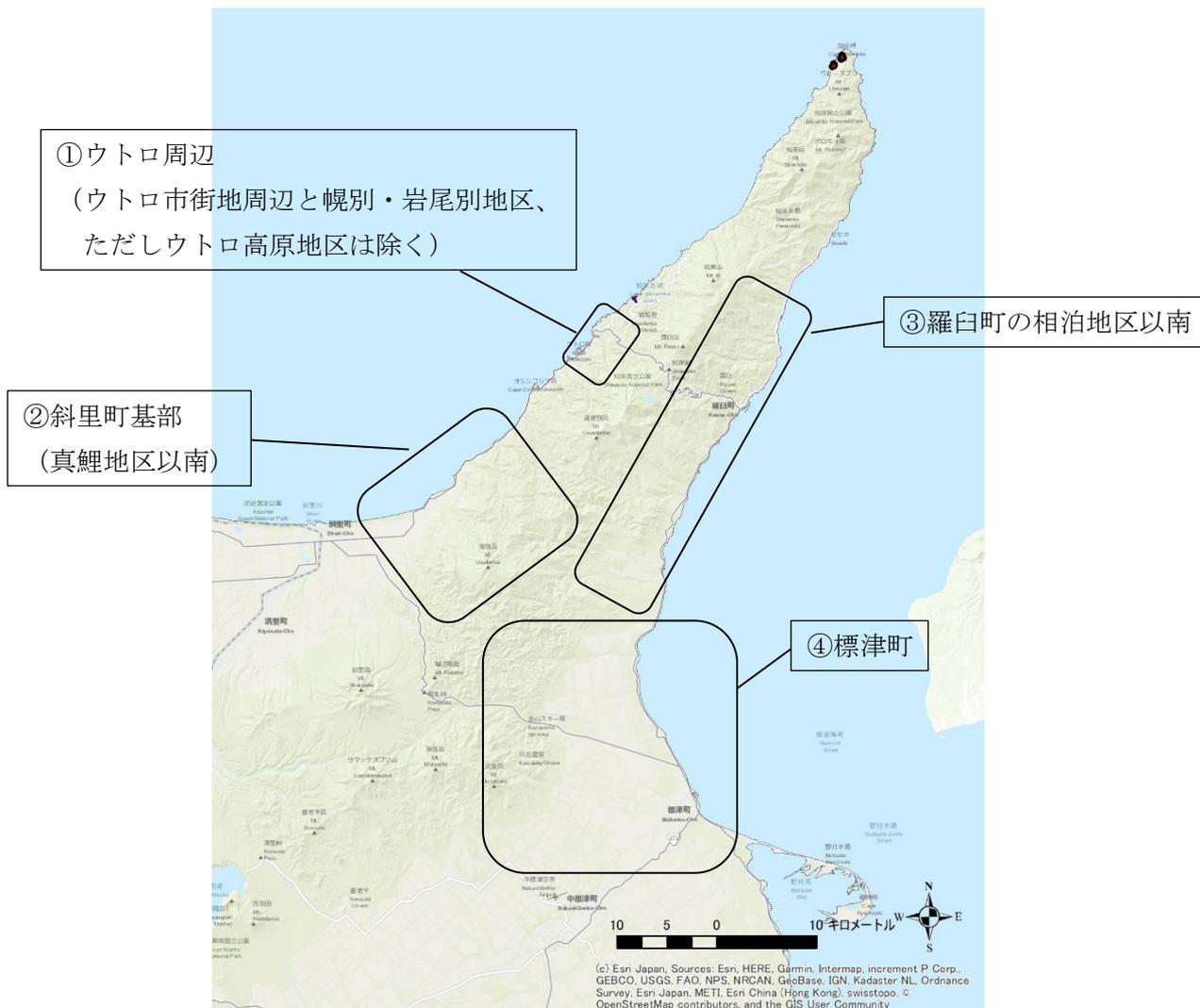
③羅臼町の相泊地区以南：

民家のゴミや水産加工場の残滓を荒らす行動段階 2 が問題となるが、住宅地の至近に出没する行動段階 1 も問題となる。

④標津町：

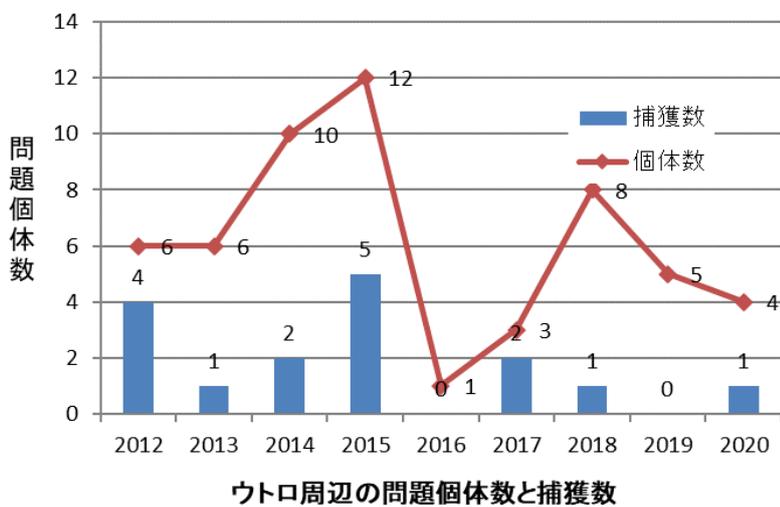
住宅近くや酪農地帯で出没する行動段階 1 や行動段階 2 が問題となる。管理計画の対象となった 2017 年以降を対象とした。

※羅臼町 2020 年と標津町についてはデータ修正中



2. 推定結果

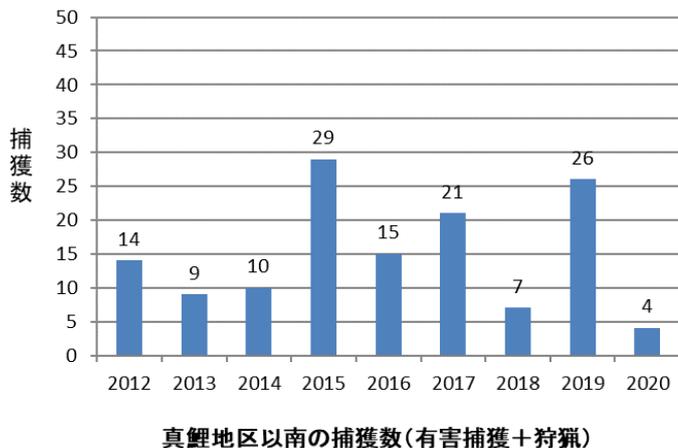
①ウトロ周辺



②～④の問題個体数の推定結果は、別紙参照。

捕獲数（狩猟で捕獲された行動段階 0 も含む）は以下に示す。

②斜里町基部（真鯉地区以南）



③羅臼町の相泊地区以南



④標津町

